

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和8年度第1回益田市総合戦略審議会																
開催日時	令和8年6月29日（月） 10:00～11:50																
開催場所	益田市役所 大会議室																
出席者	○出席者 〔審議会委員〕 竹内直実会長、北浦克成委員、山田泰寛委員、細木聖師委員、田中麻里委員、登石将司委員、福井英樹委員、上床絵理委員 〔事業担当課〕 <table border="0"> <tr> <td>地域振興課</td><td>田原課長</td></tr> <tr> <td>学校教育課</td><td>田原課長</td></tr> <tr> <td>ひとづくり推進課</td><td>堀江課長、村上主幹</td></tr> <tr> <td>文化振興課</td><td>岡崎課長、大畑課長補佐</td></tr> <tr> <td>観光交流課</td><td>城市課長、亀山課長補佐</td></tr> <tr> <td>子ども家庭支援課</td><td>山根課長</td></tr> <tr> <td>環境衛生課</td><td>野坂課長補佐</td></tr> <tr> <td>産業支援センター</td><td>松本所長</td></tr> </table> 〔事務局〕 長嶺政策企画局長、齋藤政策企画課長、宮崎総合戦略室長、吉田主任主事、可部主任主事 ○欠席者 〔審議会委員〕 澄川聡美副会長、大畑文誉委員、石橋留美子委員、三浦風委員	地域振興課	田原課長	学校教育課	田原課長	ひとづくり推進課	堀江課長、村上主幹	文化振興課	岡崎課長、大畑課長補佐	観光交流課	城市課長、亀山課長補佐	子ども家庭支援課	山根課長	環境衛生課	野坂課長補佐	産業支援センター	松本所長
地域振興課	田原課長																
学校教育課	田原課長																
ひとづくり推進課	堀江課長、村上主幹																
文化振興課	岡崎課長、大畑課長補佐																
観光交流課	城市課長、亀山課長補佐																
子ども家庭支援課	山根課長																
環境衛生課	野坂課長補佐																
産業支援センター	松本所長																
議題	「令和7年度企業版ふるさと納税活用事業及び新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）活用事業」の検証について																
公開・非公開の別	公開																
傍聴人の数	0名																
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121																

審議経過

1. 開会 ○挨拶 ○新任委員紹介 ○資料説明 ○会長・副会長の選任	
2. 議事	
「令和7年度企業版ふるさと納税活用事業及び新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）活用事業」の検証について	
事務局からの説明 ○企業版ふるさと納税に係る効果検証について…資料1-1のとおり ○新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）に係る効果検証について…資料1-2のとおり	
事業担当課からの説明…資料2（①～⑪）	
地域振興課	①新たな「移住・定住」推進プロジェクト事業の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
学校教育課	②小規模校合同学習実施事業 ③（小）学校図書館図書整備事業 ④（中）学校図書館図書整備事業 ⑤中高連携学力育成推進事業

	の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
ひとづくり推進課	⑥ひとづくり推進事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
文化振興課	⑦岩本薫記念益田杯決勝誘致事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
観光交流課	⑧益田版 DMO 支援事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
子ども家庭支援課	⑨こども家庭支援センター利用者支援事業 ⑩地域子育て支援センター事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
環境衛生課	⑪カーボンニュートラル推進事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
質疑応答…資料 2 (①～⑪)	
委員	①について 新たな移住定住プロジェクト事業の移住フェアについて、島根県内の他の自治体も参加して実施するイベントかと思うが、益田に移住してもらうにあたり益田の売りとなる点、特に他の自治体との違いやアピールポイントを教えていただきたい。 ⑥について ひとづくり推進事業の成果について、「将来、益田に住みたい」と応えた新成人の割合が記載されているが、ここでの”将来”というのは具体的にライフステージのどの時期を指しているのか。例えば大学卒業後の 20 代なのか、一旦県外に出て 30 代、40 代になって子育てのために益田に住みたいのか、定年後なのか。それぞれの年代によって定期的に情報発信する手段が代わると思うので、もし聞いていなければ今後少し細かく聞いてもいいのではと思う。
地域振興課	①について 益田市の総合戦略の中でも、ひとづくりを益田市のアピールポイントとして考えている。定住フェアには実際に移住された方やひとづくりに関する中間支援組織の職員を派遣し、益田市の”ひとづくり”の取組みを PR しており、このような特色に興味を持ってもらえていると感じている。
ひとづくり推進課	⑥について はたちの集いで集計したアンケート結果をもとにまとめているが、質問を細かく設定していないため、今年度のはたちの集いに向けてはもう少し内容を検討したい。
委員	①について 成果として 3 月末時点で定住者 1 名、移住希望者 3 名いるとのことだが、目標数値はどう設定しているのか。また、この方たちが益田市のどこに魅力を感じて移住・定住の希望をしているのかポイントを教えてほしい。 ②について 小規模校 7 校合わせて何人の児童がいるのか、また令和 8 年度に追加された 1 校がどこかを伺いたい。 ③④について 図書館の図書整備事業は成果のところ、図書館の利用がふえたとかそういった数値的な評価をしているのかをお尋ねしたい。 ⑥について 資料 2-6 の裏面にキャリア教育に参加した企業数が記載されているが、目標 250 社に対して実績 149 社で 100 社以上の乖離がみられる。企業側にもっと参加を促す取組などを行っているのか、今後の見込みもお伺いしたい。 ⑧について 益田版 DMO の一般社団法人益田プライドクリエーションの取組内容でワーキ

	ンググループが3つあると思うが、話せる範囲で現在の進捗状況、今後どういった展開になるかをお尋ねしたい。 ⑨⑩について それぞれの事業の評価ではないが、子ども家庭センターと子育て支援センターをそれぞれ別々に運営しているのはなぜか。その意義を教えてください。
地域振興課	①について フェアへの参加やお試し移住はある程度ハードルが低い、実際に移住定住を行うのはハードルが高いと考えており、この事業単体での目標値は現在のところ設けていない。ただ総合戦略の KPI としては県外からの UI ターン者を、令和 8 年度は 200 人、令和 12 年度は 230 人にのぼしていくことを大きな目標として掲げている。この事業のみで 200 人にもっていくことはなかなか難しいが、この 200 人に向けての一つの施策として新たな移住定住プロジェクトを考えている。 また、実際の移住者がどこに魅力を感じているかという点については、ひとづくりに関心を持って、このフェアからその先のお試し移住に繋がっているという方が結構多くいる状況。昨年も東京大学から地方創生を研究されている方々が対話プラスやライフキャリアといった考え方に興味を持ち益田市に来られている。このような方々が直接移住定住に向かうかは分からないが、そうならなくても益田市に関わる関係人口として繋げていきたいという風に考えている。
学校教育課	②について 小規模校合同学習事業の対象となる 7 校について、全校生徒数が 9 名から 35 名の学校で、合計 155 名である。令和 8 年度から鎌手小学校が加わる予定。 ③④について 本事業の事業目標としては定めていないが、現状を把握するためのデータとして本の貸出冊数と授業での図書館の利用状況を確認している。貸出冊数は令和 7 年度実績で、小学生 1 人当たり平均約 50 冊、中学生については約 7 冊、授業での活用は小学校は 1 クラス平均約 46 時間、中学校は 1 クラス平均 37 時間となっている。目標指標にはしていないが、このような数字をみながら図書館の活用状況について分析をおこない事業を実施している。
ひとづくり推進課	⑥について ひとづくり推進事業に参加した企業数は益田版職業体験にご協力いただいた事業所数で益田商工会議所、美濃商工会、未来の担い手コンソーシアムへ協力依頼している。中学校側の実施日程により、協力を申し出て下さった事業所でも参加できなかったという状況があり、実際の参加希望は 149 社以上ある。 今後の見込みとして、総合振興計画のアンケート結果から、高校生が将来就きたい職業の 25%が保健医療関係であったため、この分野の事業所の協力依頼を検討したい。
観光交流課	⑧について 食・名産品ワーキンググループ、田舎暮らし自然アクティビティワーキンググループ、石見神楽ワーキンググループの 3 つで構成されている。令和 7 年度はアイディア出しと検討の期間で、令和 8 年度以降、事業を具体化して観光客の増加と観光消費額の拡大を図る計画。現時点の意見としては、田舎暮らし自然アクティビティワーキンググループではキャンピングカーのお試しレンタル事業の展開や、食・名産品ワーキンググループでは、高津川を活かした食材のブランド化などを進めるというのではという意見が出ている。
子ども家庭支援課	⑨⑩について 子ども家庭センター利用支援と、地域子育て支援センター事業の 2 事業について、子育て支援センターは就学前のお子さんと保護者を対象に相談事業、交流事業や、都度そこに乳幼児と保護者が気軽に集って交流できる場を提供する事業を行っている。その他にファミリーサポート事業というのも実施している。 子ども家庭センターについては、令和 6 年 4 月の児童福祉法改正により設置が努力義務となったもので、益田市も令和 6 年 4 月から開設している。元々、乳幼児検診や産後ケア事業など母子保健や予防接種を実施する母子保健係と児童虐待や児童家庭相談を担当する子育て安心相談係があり、この二つが連携して子育ての切れ目のない支援にあたるように設立されたのが子ども家庭センターとなっている。2 つのセンターは関連があり、お互い連携しながら切れ目のない支援に当たっている。

委員	頂いた寄附をどの事業に使うのかが重要なのではと感じており、寄附をしてくれた企業様の納得感や今後さらに寄附をいただける条件づくりも大事なのではと考えている。地域再生計画に基づいて企業様は寄附地に事業や用途を指定されるものなのかを教えていただきたい。
政策企画課	ご寄付頂く際、企業の方にこういった事業があるがどの事業に充てていくかということの意思統一をして企業側の了承を得た上で寄附を充てている。また、事業終了後、次年度にはなるが事業報告を兼ねて感謝状贈呈式を行ったり、企業側との繋がりを積極的に維持する取組みも行っている。
委員	新規に企業様から寄附の募集や呼びかけ、そういった問い合わせ状況はどうか。
政策企画課	基本的には益田会などからお申し出を頂いたりホームページ上での呼びかけをしている状況である。
委員	市としてはたくさん寄附を貰える状況になった方が良いと思うので、効果検証ももちろん必要だが、寄附して下さった方の充実感やもっとたくさん寄附を頂けるような取組みにも労力を使ってもらえると良いと思う。
委員	⑦について 益田出身の著名な方で来年度も決勝戦誘致をするとのことだが、最終的には、例えば益田では囲碁が強いという状態にすることが目的なのか、それともこれをきっかけに益田を知って頂く事が目的なのか。 ⑧について DMO 事業について、事業費 7000 万円のうちの一部、1000 万円ぐらいを寄附金から充てているが、全体の事業の中でふるさと納税を充てる事業とそうでないものを分けているのか、それとも全体の中の一財源として使用しているのか。
文化振興課	⑦について 岩本薫記念益田杯の決勝戦は元々スポンサーの方がいて、日本棋院と益田杯をやるということから始まったもの。第三回からふるさと納税を充てることができ益田に誘致させていただいた。せっかく益田で実施するのでここでやる意義や岩本薫の功績なども見ていただき他の集客にも繋げたいという両方からの意義を込めて行った。今回の集客人数は市内外合わせたもので、もう少し分析をする必要があるが、広く知っていただく機会になったのではと考えている。改めて分析をしながら次年度以降のことも検討していきたい。
観光交流課	⑧について DMO と 3 つの観光協会の運営補助として合計が 7600 万円の事業費となっており、全事業費の中での活用となっている。
政策企画課	⑧について 補足説明として、企業様に寄附を頂くときにどの様な事業に活用するか調整をさせていただくが、観光など大きな枠でお話を頂く事が多い。その中で総合戦略に資する事業としてどういった事業があるかこちらからご提案させて頂いている状況。この DMO 支援事業についても、企業様と調整し観光振興の事業全体という形で活用させていただいている。
委員	⑥について 帯グラフについて、益田市と韓国、中国、米国、日本の全てが対話プラスの授業後なのか、それとは関係ないのか、益田市は実施したが他はやっていないのか、どういう条件でのアンケート結果なのか。
ひとづくり推進課	⑧について 益田市の中高生については対話プラスが終わってからの事後アンケートである。諸外国については先生の確認が取れていないが、おそらく日常生活の中で調査を行った結果ではないかという風に考えている。
委員	⑧について 韓国、中国、アメリカ、日本で対話プラスをやっていない状態でのアンケートであれば、実施した場合数値が良くなる可能性がある。前提条件が平等でないのであれば比較してもこのグラフから結論が出せないのではないかという感想を持っている。

ひとづくり 推進課	⑧について 調査いただいた方にお会いする機会があれば確認してみる。
委員	③④について 図書整備事業自体は良い取り組みだと思うが学校ごとに冊数が違う。小中学生にしてみると、どれだけ蔵書があるかという学びの機会は平等である方がいいのではと思う。物理的な制約があり難しいのかもしれないが、データ化して学校間の貸し借りができると、どこにいても同じ学習ができるのではと思う。どのように冊数が決まっているのか。 ⑧について DMO 事業について、観光協会と DMO の役割は現時点で一般市民からするとよく分からないし、どういう事業を担当しているか見えにくいのではという風に思う。様々な事情から観光協会が 3 つあり、今後統合しないといけなと思うが、何に使っているのかそのあたりを伝えていくのは大事なのではという意見。
学校教育課	③④について 資料に記載している図書購入冊数は市の予算で購入したものと各学校や地域からの寄付も含めた数字となっている。学校が図書を購入する際はそれぞれの学校で図書選定委員会があり、どういった図書を購入するのか決定されている。現時点では学校間での図書の貸し借りは行っていないが、益田市立図書館と各学校の本の貸し借りは行われており蔵書が不十分なものについては市立の図書館の図書を貸し出して補完している。
観光交流課	⑧について 仰る通り現在益田市内には 3 つの観光協会がそれぞれ残っており、統合についての協議を進めている。また、役割分担については昨年度観光振興計画を策定し、市、DMO、観光協会がそれぞれ何を行うのか定めた。今後はこれに基づいて計画の進捗管理を行う。
委員	⑥について 現在企業でもインターンシップなどの取組みを進めているが、高校生や大学生など市内の企業の魅力を知る機会をもっと増やすことが重要だと感じている。インターンシップから就職に繋げるためには企業側の努力も必要かと思うが、今後も行政、教育機関、企業で連携を取りながら進めていきたい。
事業担当課からの説明…資料 2 (12～16)	
ひとづくり 推進課	⑫未来の担い手育成事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
政策企画課	⑬若者還流・定着推進事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
学校教育課	⑭理系人材育成協働事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
観光交流課	⑮歴史文化交流館管理運営経費 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
文化振興課	⑯歴史文化交流館企画展示事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料のとおり説明。
質疑応答…資料 2 (12～16)	
委員	⑫について 事業費について令和 7 年度の実績があつて 8 年度以降に記載がないのは別の事業として実施予定なのかどうか確認したい。 ⑮について 同じ事業で 3 つの指標があるが、事業検証の文言が全て同じものになっている。先ほどの説明のなかではコンテンツの工夫等があるので、事業検証の現状、課題、対策の内容をコンテンツ数に沿ったものに修正していただきたい。目標指標としているコンテンツ数と事業検証を一致させた方が良いと思う。
ひとづくり 推進課	⑫について 実際は令和 8 年度以降も実施しているが、前半で説明させていただいたひと

	づくり推進事業とこちらの未来の担い手育成事業の中身を整理し、事業名を変えて事業展開をしているため8年度以降は空欄となっている。
観光交流課	⑮について コンテンツ数に沿った検証に修正を行う。
委員	⑫について 「夏フェス」の記載があるが、正式名称ではないと思う。長いので省略しているのかもしれないが、初めて見た方でも分かるように説明、補足があると良いのではないかな。 ⑮について グラントワ自体平日の来場者が少なく、現実的にグラントワとの連携が数字に反映するのか疑問である。また、収益額の達成率が7.1%となっており目標と実績が大きく乖離している。目標が高すぎてこの事業にかかわる方のモチベーションが上がらないのではないかな。そもそも目標値がここまで高いのはなぜか。
ひとづくり推進課	⑫について 未来の担い手育成事業、夏フェスの表記について、正式には「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」という益田市が掲げているテーマに夏フェスをぶら下げている形。会議資料としてホームページに掲載する際に修正して周知させていただく。
観光交流課	⑮について グラントワとの連携について、イベントのチラシをグラントワにおいていただき、れきしーなにも足を運んでもらうなど出来るところからやっていくしかないと考えている。収益額の目標値が高すぎるというご指摘に関しては、建物の改修を行う際、計画段階では喫茶スペースを設ける予定だったが実際には設置しなかった経緯等があり目標値が高くなっている。現状で収益となると、レンタサイクルや書籍販売、交流活動ルームの貸出料というところなので出来るところで収益を上げていくようにしたい。
委員	⑮について 数字が伸びない中でチラシの設置だけではなく、全く違う発想で対策された方がいいのではないかなと思い質問をした。この意見を念頭に置いて考えてもらえればと思う。
観光交流課	⑮について 引き続き指定管理者や文化振興課と連絡調整会議をおこなっていくので頂いたご意見を共有して考えたい。
委員	⑮について 先ほどご質問があった通り、昨年度も目標数値について問題になった。目標値を変えることができないのであれば「現状」のところに正直に記載して、収益拡大のためにどういう努力をしてどこが課題か、目標指標に合うように記載の修正をお願いしたい。
観光交流課	⑮について 目標指標に合うように記載を修正する。
委員	⑭について 理系人材育成事業の参加者は何名ぐらいか
学校教育課	⑭について 小学生で163名、中学生で77名から申込があり、延べの参加人数は530人。
委員	⑭について 現状に参加者の記載がなく、この金額を使ってどれくらいの人数が参加し、今後何名くらいまで参加してほしいのか記載されると良いと思う。
委員	⑭について 先ほどの質問に関連して、実績欄が空欄になっているが、「数学や算数が好きになった」や、参加大学生が「非常に良かった」と答えている割合など、かなり成果を上げているので、目標値はなくても実績を上げているのであれば説明をお願いしたい。数値的な実績があるのであれば事業検証の中で上げた方が具体的に分かると思うので記載をお願いしたい。

政策企画課	この総合戦略の目標指標は総合戦略で掲げている目標を書きいただくことになっており、直接目標指標に紐づく事業と、直接は紐づかないがそれにつながるものとして実施している事業がある。計画に直接は紐づかない事業についてはここに目標指標の記載がない状況。 また実績については、目標指標とは別にある程度どの事業についても目標を定めており、それについての実績ということで報告させていただいている。全体的に今後もそういった実績がわかるように記載したいと思う。
委員	個人的な感想として、行政の事業上仕方ないのかもしれないがもう少しわかりやすくしてほしいという意見を伝えさせていただきたい。
委員	⑫について 一番最初のシートのつろうて子育て協議会の実施回数が目標の200%以上達成となっており大変素晴らしいが、ここに至った要因を教えてください。また、課題として、ひとつなぎコーディネーターが7名のところ5名配置で2名不足していることを記載しているが、課題と実績の関連が少し分からない。例えば2名増えたら実施回数は増えるのか、そうではなくてコーディネーターはそれとして重要だという事なのか、課題のコーディネーターの数を増やす事で実績回数はどう変わるのか教えてください。
ひとつづくり推進課	⑫について 進捗管理の欄に令和2年からコンスタントに1000回を越える実績がある。コーディネーターもその一因ではあるが、コーディネーターに依らず地域と子ども、大人を含めた連携協働が各地域に浸透してきた結果であると考えている。ふるさとひとつづくりコーディネーターは7名配置の予定が実績5名で、2つの学校には配置が出来ていない現状がある。大学生がフィールドワークなどで益田に入る機会を捉えて周知していきたい。仮に2名配置されたら実績数は伸びるだろうと感じている。
委員	⑫について 目標を大幅に達成しており開催回数を増やすことが課題にはならないのではと思っている。そのためコーディネーターの数を増やすことが課題にされたという認識で間違いないか。
ひとつづくり推進課	⑫について ふるさとひとつなぎコーディネーターとしては人とふるさとを繋いで、なおかつ出身者とのコーディネートを行うもので、地域と学校をつなぎ地域の住民も巻き込んで、地域交流活動をしていくという趣旨。その観点から、やはりコーディネーターは学校運営協議会を配置された学校には配置して今後も、ふるさと教育等々の推進を図っていきたいというふうに考えている。
委員	⑫について 関連した質問で、実施回数について行政が考える数と各地域から吸い上げた数、積算根拠が違うのではと感じる。コロナ禍が一番実施回数が多いので少し疑問。分かる範囲で説明をお願いしたい。
ひとつづくり推進課	⑫について つろうて子育て協議会の事務局は公民館が担うことになっており、毎年度末に公民館から活動報告をいただいている。そういった回数を踏まえて市でカウントしているが、もしかしたら地区と市の間で認識の違いがあるかもしれない。今後は整理しながら、公民館からの報告の際には丁寧に分かりやすく説明することをしていきたい。
委員	⑫について よろしく願います。実際の実施回数の方が大切で、報告は会議なども含まれている回数なのではと思っている。
委員	⑫について つろうて子育て協議会は公民館の皆さんで開催されるということなので、やはり実績値に対する課題が適切ではないのではないかと思うがこの点はどうか。

ひとづくり 推進課	⑫について 仰る通りふるさとひとつなぎコーディネーターを配置する予定は7か所しかなく、それ以外の地区においても頑張っていることを踏まえれば、コーディネーターというところだけが課題ではないかもしれない。課のなかで調整して正しい課題を記載したい。
3. 閉会	